

教育学科・教育研究上の目的及び3つのポリシー

教育研究上の目的

文学部教育学科は、教育学に関する学識を修め、教育に関する知識・技能について、理論的実践的に優れた能力を有する人材の養成を目的とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

教育学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士(教育学)の学位を授与する。

1. 豊かな教養と専門的知識およびそれを活用する技能

- (1) 本学科の教育学研究の柱である教育学・心理学・福祉学・芸術学の領域に関して深い学識と適確な技能を修得している。
- (2) 幼稚園・小学校の教員、保育士、その他の教育者・発達援助者として、子どもを含む人間が学び発達していく理論および実践活動について、専門的な識見を修得している。
- (3) 教育・発達援助の専門家として、困難や課題を抱えている対象に対して、条件・状況に応じた適確・創造的な学習指導・生活指導や養育活動を組み立てる実践的スキルを習得している。

2. 他者との共同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力

- (1) 教育の専門家として、また現代社会の市民として、教育的課題・社会的課題の解決のために、情報リテラシー・柔軟な発想力・豊かな感性を身につけ、他者と協同で問題解決のための活動ができる。
- (2) 自らの学習・探求した成果を、報告書や論文、あるいは芸術作品としての的確に表現し、他者・社会と共有できる能力を身につけている。

3. 自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感

- (1) 子どもを含む人間の多様な在り方・生き方に関わる諸問題について、常に関心をもち、主体的に取り組むことができる。

4. 本学の建学の精神や本学の理念に対する理解

- (1) 多様な価値観・文化を持つ人々と協同で問題を探求し活動することができる。
- (2) 日本社会や国際社会において生じている多文化共生に関する諸問題について、広く関心を持ち、学問的に探求することができる。

教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

教育学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方針に基づき、教育課程を編成する。

1. 教育内容

- (1) 1, 2 年次には、広く深い教養を身につけるために、学部・学科を越えた「全学共通科目」から自然・社会・人文諸科学の各科目、「基礎教育科目」から外国語科目・情報処理科目等を学ぶ。さらに教育学研究の基礎力を養い問題意識を耕すために「教育学科入門科目」としての「基礎演習」を履修する。
- (2) 1 年次から 4 年次を通じて「教育学科専門基礎科目」、「教育学科専門科目」、「教育学科演習科目」

を学ぶ。それらは教育学・心理学・福祉学・芸術学の領域を柱として、多様性と系統性を重視して教育課程が組まれている。とりわけ、3、4 年次で履修する教育学演習（ゼミナール）では、少人数の学習集団の中で専門的テーマを深く研究していく。

- (3) 1 年次から 4 年次を通じて、幼稚園・小学校の教員免許、保育士資格が取得できる教育課程が用意されているが、教育学の知見に裏づけられた免許・資格となるよう、理論と実践のバランスを考慮した教育課程が組まれている。

2. 教育方法

- (1) 理論的な学びが実践に結びつけられるように、ディスカッションやグループワーク、実験、校外フィールドワークを含む多様な授業形態を取り入れ、教育や社会の現代的諸課題を主体的・協同的・創造的に探究することをめざす。
- (2) 全員が教育学演習（ゼミナール）を履修することによって、集団的研究・実践活動を経験し、その成果をゼミ論文や卒業論文として発表する。
- (3) 1 年次から 4 年次を通じて、問題関心や進路に応じた個別的指導を重視する。

3. 評価方法

- (1) 学位授与方針で掲げられた能力の評価として、教育学科における卒業要件達成状況、単位取得状況、GPA 等の結果によって測定するものとする。
- (2) 4 年間の総括的な学修成果として、複数教員による卒業論文等の評価を行う。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

教育学科は、教育研究上の目的、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）に基づき、次のような要件を備えた受験生を各種選抜試験によって受け入れる。

1. 知識・技能

- (1) 本学科の教育学研究の柱である教育学・心理学・福祉学・芸術学を学ぶ上で十分な基礎知識・技能を修得している。

2. 思考力・判断力・表現力

- (1) 教育的課題・社会的課題に関して多面的かつ論理的に考察することができる。
- (2) 自らの学習・探求した成果、およびそれに基づく自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。

3. 主体的に学習に取り組む態度

- (1) 幼稚園、小学校の教師や保育士、その他の教育・養育の専門家を目指す意欲をもっている。また、教員・保育士・福祉職志望ではなくても教育学や心理学・福祉学・芸術学について研究する意欲を持っている。そして何より人間が学び育つこと、それを援助する営みについて関心・問題意識を持っている。
- (2) 幼稚園、小学校教師、保育士、その他の教育・養育の専門家として確かな力を持って活躍できる実践的な能力を身につけるための学習活動に積極的である。また、多様な他者と協力しあって活動することに積極的である。

教育学科アドミッション・ポリシーと各入学選抜試験との関連表

入試方式	選抜方法	アドミッション・ポリシー		
		知識・技能	思考力・判断力 ・表現力	主体的に学習に 取り組む態度
		AP1	AP2	AP3
一般選抜 桐門の翼奨学金試験 ※選抜方法は入試方式で異なる	学力試験			
	英語民間試験スコア	●		
一般選抜 (英語民間試験活用総合評価型)	英語民間試験スコア	●		
	事前課題論文	●	●	●
総合型選抜 学校推薦型選抜 特別選抜 ※選抜方法は入試方式で異なる	調査書 等	●		
	事前課題論文	●	●	●
	小論文	●	●	●
	自己推薦書	●	●	●
	口頭試問	●	●	●